

第5章 地域での市民・事業者の取り組み

地域の環境をよくするためには、市民・事業者の皆さんの取り組みが鍵となります。

この章では、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の取り組みを報告するものです。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、知る、考える、行動するきっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

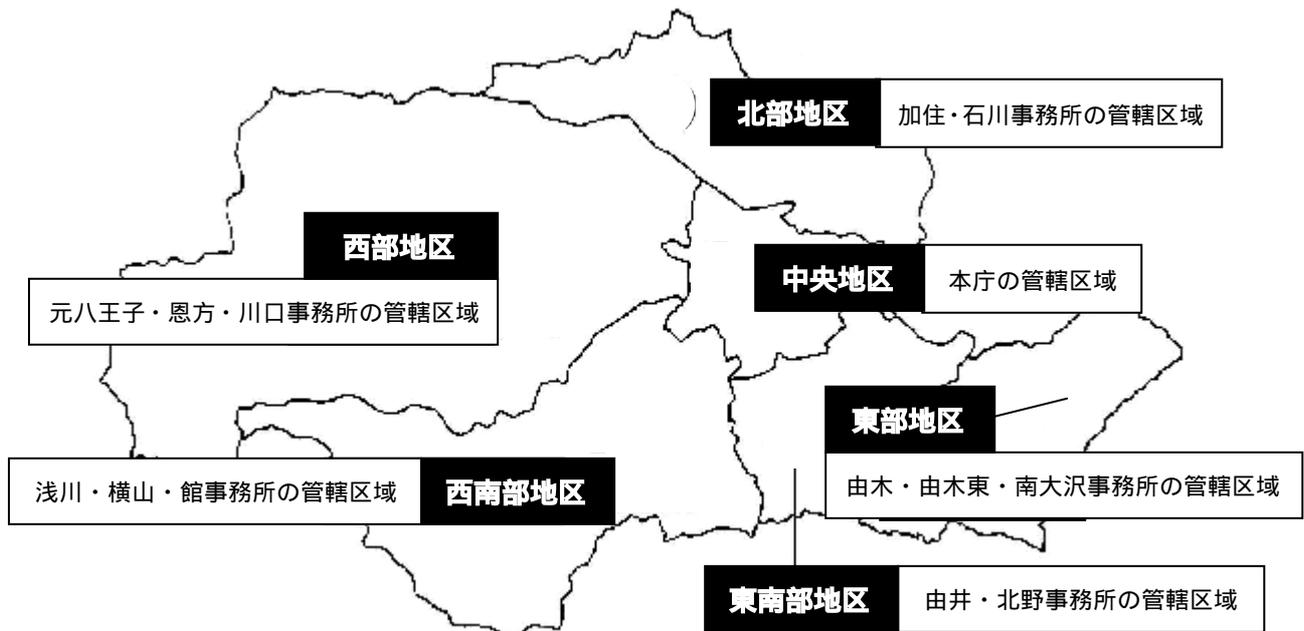
環境基本計画では、市内を6つの地区に分け、各地区ごとに目指す環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理したうえで、多くの課題から絞り込んだ重点課題と、その解消に向けた重点目標、重点取り組みを「地域行動編」として示しています。

その地区の皆さんの行動が最も重要ですが、その地区の取り組みの推進力となるのが環境市民会議です。

環境市民会議は、市民・事業者によって自発的に環境保全活動を実践する組織ですが、環境基本計画の「地域行動編」は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

地域行動編の目標を達成するためには、地区内の町会・自治会や各種団体との連携はとても大切です。

【環境市民会議6地区の区域】



中央地区環境市民会議

中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

私たちが行った調査では、水質や大気が年々改善されている反面、河川への不法投棄や犬の散歩マナーの悪さ、 unnecessary アイドリングはなかなか減りません。

また、八王子の玄関口である八王子駅周辺の放置自転車やポイ捨てタバコは減少傾向にあります。また、まだまだ多く見られます。

こうしたことから、さらに市民への意識啓発活動が必要と感じます。

活動を重ねることにより、ごみの減量や省エネに対する地域の皆さまの意識が高まり、関心を持ってもらえるようになりました。

活動内容

河川環境

年間30回以上の浅川巡回パトロールによって、浅川の環境保全に対する成果は年々あがっており、特に、ごみの不法投棄の防止に関しては、顕著に表れています。今後は、町会・自治会へ積極的に呼び掛け、協働して犬の散歩マナー向上の啓発運動を推進していきます。

5月22日、浅川暁橋付近の水生生物の本格的な調査を行い、学術的なデータが得られたことから、浅川環境指標としての活用が期待されます。

また、10月2日、「自然体験講座：浅川ふしぎ探検」を市と協働で実施し、32名もの親子の参加があり、とても盛況でした。



町会との協働による河川パトロール

大気汚染

中央地区内の31ヶ所において、二酸化窒素の濃度測定を6月と12月の第一木曜日と金曜日にかけて実施しました。

一部測定中にカプセルが無くなって測定できないところもありましたが、大きな支障もなく比較的スムーズに測定できました。

この測定は、平成15年から始めて、本年度の2回をあわせて5回実施したことになります。

大気汚染の程度は、天候に大きく左右されますが、5回の平均値をとると、ほぼ平均的な濃度が示されていました。

自動車の信号待ちなどが多いところは、二酸化窒素の濃度が0.05～0.06ppmと比較的高くなっていますが、中野上町については、平成16年度に比べて改善されているようです。

これは、秋川街道の拡幅の結果、自動車の流れがよくなったためではないかと思われます。

このことから、大気汚染を減らすためには、自動車の流れをよくすることが効果的といえます。

まちのみどり

神社や公園などは木々が多く、巨木も残されていますが、こうした巨木を保全するには行き届いた手入れがとても大切であり、これを怠るとすぐ枯れてしまいます。

アドプト制度や専門知識者などにより、残された巨木の保全に努めています。

まちなかの農地などは、生産緑地制度などの制度により保全されています。

また、市役所通りの道路アドプトは、近隣の町会等の団体と協働して成果をあげています。

みどり、美観及びポイ捨てなどの実態を歩いて調査する「まちなかウォッチング」を実施し、環境を保全する施策の資料収集に努めました。



市役所通り道路アドプト

まちの美観等

タバコのポイ捨てはなかなか減りません。

まちの中に見られるガーデニング、花とみどりのコントラストは、人の目にやさしく美観です。

そこで、多くの市民の意識向上を目指して、写真コンテスト「好適(すてき)なガーデニング*コンテスト」を実施しました。応募者は300人を超え、市役所のロビーにおいて展示し、来庁された一般市民に投票をお願いしました。



市民センターまつり

ごみの減量・資源循環

ンターまつりをはじめ、くらしの見直し展、みずき通りフスティバル、八王子市職員組合文化祭、いちょう祭り、そ、「ごみを減らそう」環境コーナーを設け、市民のみなさ生活について話し合ったり、環境クイズを実施することにした。

地球温暖化

地球温暖化の原因の一つとして、二酸化炭素の排出量の増加があげられますが、その排出抑制策として、省エネルギー活動について市民のみなさんに紹介しています。

北野あったかホール「エコひろば」において、8月に1回、11月の同ホールのリサイクルプラザまつりで2回省エネ教室を開き、98名の親子の参加のもと、現状の地球の問題を紹介し、省エネの大切さを伝えました。



子どもたちを対象に省エネ教室を開講

北部地区環境市民会議

北部地区環境市民会議活動の現状

これまでどおり、水、みどり、ごみ、大気の4つの分野において活動しました。

なかでも啓発活動として、宇津木台小学校のサタデー・スクールと協働して北部地区の地形の特徴を市民の皆さまに知っていただくため、立体地形図（ジオラマ）を製作したこと、又、私たちの活動内容を紹介したホームページを年末に開設したこと、さらには、啓発事業の柱であり懸案だった広報誌『身近な環境だより』を発行したことの3つの活動が特に挙げられます。

活動内容

水

谷地川にウグイやアユなどが戻り、子供たちが水に触れて遊べる、そんな川を目指し、水質調査を滝山橋下や新旭橋付近など7地点で隔月行ったほか、新たに水生生物の調査も実施しました。

今後は、地域の住民のみなさまに関心を持っていただこうと、水質の調査結果を地域に発信し、河川水質改善への啓発を行っていきます。

みどり・生き物・景観



自然体験講座で公園散策

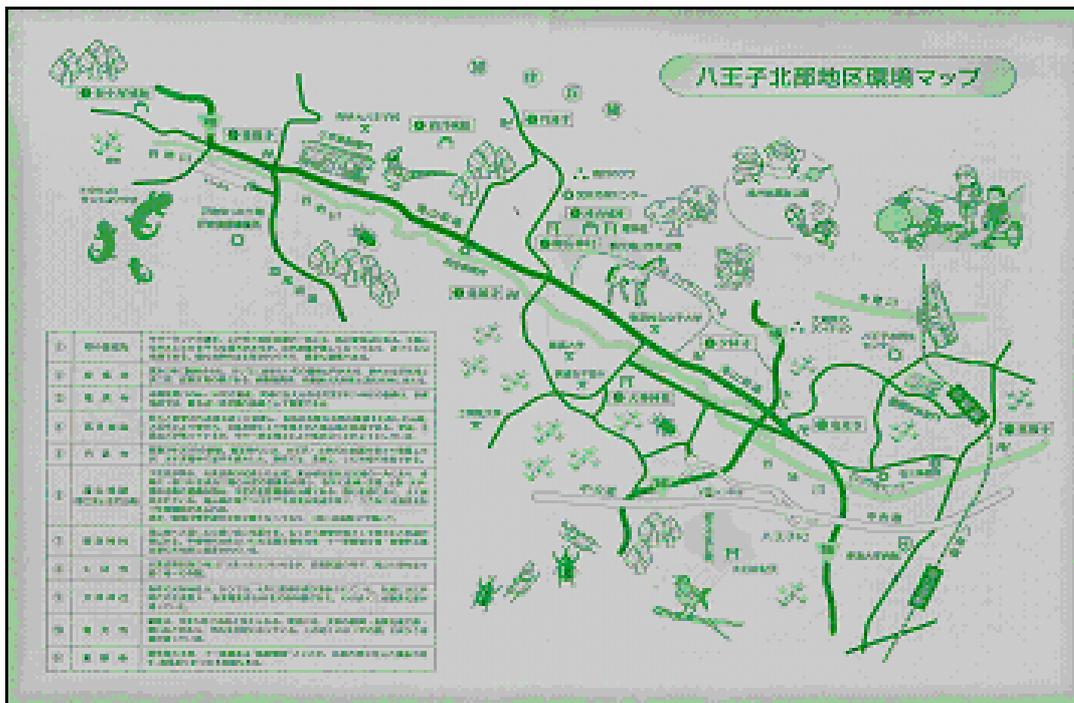
みどりは水とともに生物の生息の基盤となるもので、多様な植生や生物の生息する場所を確保しなければなりません。

みどりの拠点である「滝山公園」や「小宮公園」、「粟の須緑地」などの現状を維持するとともに、滝山城跡に関しては、城郭の由来や歴史などに関する講座を加住住民協議会及び関係団体と協働した結果、地域住民の関心も高められ、今後も継続実施する予定です。

また、この講座の実施に伴って、現地の下草刈りも行いました。

11月には、自然体験講座を市と協働で実施し、大谷緑地では草刈りの体験学習を行い、又、小宮公園では自然観察を行いました。

なお、16年度に作成した「環境マップ」を活用し、北部地区の環境や歴史、文化などを知っていただくための教材として、今後も活用していきます。



環境マップ



不法投棄が激減

ごみ

山林や道路、公園などのごみ不法投棄の巡回パトロールを年2回実施しました。

不法投棄については、ごみの有料化に伴う監視体制等の強化があり、大幅に改善されました。

今後も市とともに監視体制を強めていきます。

また、関係団体等と連携をとりながら啓発活動を広げていきます。

道路（交通公害）

簡易カプセルによる NO_2 の測定を、国道16号バイパスや滝山街道などの幹線道路を中心に、30ヶ所で4回実施しました。

この大気測定結果を各地区の市民会議と協働して全市的にまとめ、反映させていかなければと考えます。

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

八王子城跡から堂所山、陣馬山、醍醐丸、市道山、今熊山、戸吹へと連なる丘陵は、森林、窪地、里山、農耕地など様々な地形が入り組んでいます。この丘陵は、浅川の源流域（8つの支流）であり、多様な生物が生息し、中には絶滅危惧の種も息づいています。

ところが、この良好な自然環境が変化してきています。

手入れの行き届かない山林は荒廃が進み、担い手がいなくなり耕作放棄した農地が点在しています。特に谷戸田は、灌木や草が生い茂り、放置された土地は資材や廃物置き場などに改変が進んでいます。さらに、宅地造成や道路整備、事業所進出、霊園造成などにより、緑地が削られ減少し、生活・事業系排水による河川の汚染、ごみの不法投棄が横行するなど自然環境を傷つけ壊す行為・実態がある一方、自然環境保全への行動は立ち遅れています。

清流・みどり・生態系と向き合い、良好な生活環境を維持するために、一人ひとりが環境について考え、日常生活から環境をいたわった行動が求められています。

そのためには、地域の皆さまの協力の基に、実践活動重視の環境保全活動に取り組んでいかなければなりません。

活動内容

都市環境・みどり

1年前まではアズマネザサや灌木が茂り、谷戸田の存在も確認できないほど荒れていた休耕田も、毎月の定例活動が定着することで20年ぶりに里山の全容が現れました。この1年間に作業に参加された人数は70名を越え、休耕田と周辺の雑木林の伐採や笹刈り、草刈りなどで作業した面積は1,500㎡ほどに達しています。今後は谷戸田の整備、ため池づくりなど里山景観の保全を進めることで、小・中学校が自然体験や環境学習に活かせるフィールドづくりを展開していきます。

さらには、地域に活動情報を発信し、住民との連携を深め、観察会やイベントなどを通して地域環境に関心を持ってもらう活動を充実させていきます。



平成16年7月：整備前



平成18年2月：整備後

大気汚染・粉じん防止

簡易カプセルを使用したNO₂の大気測定を18地点で、6月と12月の2回実施した結果、幹線道路での数値が悪化していました。これは、交通量の増加とそれに伴う渋滞が原因と思われます。

9月には犬目交差点を対象に交通量調査を行い、交通量が増加していることが確認できました。圏央道「あきるのIC」が供用開始されたことで、通過車両が増加したものと考えられます。

また、昨年に引き続き、降雨時に3地点で雨水のpHを測定した結果、酸性雨頻度は95.3%となり、昨年の状況とほとんど変化がみられませんでした。

廃棄物・資源、エネルギー

山間部や河川等で後を絶たない不法投棄については、市の清掃担当者と情報交換を行いました。その後、川口町の「下げ坂」が不法投棄パトロール重点地区に指定され、監視カメラ2機が設置されました。

また、住民、町会、市の方々と協働して、「下げ坂ごみZERO運動」を行い、不法投棄されたごみの回収を行いました。

不法投棄は、夜間や通りすがりに行われることが多く、実態把握や防止対策等がとても困難となっていますが、地域ぐるみで監視体制をつくっていきたいと思います。



不法投棄現場



醍醐川

水環境

6月の環境フェスティバルに浅川の小鱼や水生昆虫合計17種類を展示し、好評を得ました。

また、同月には、「身近な水環境の全国一斉調査」に参加し、4ヶ所の水質を調査しました。

11月には、地域環境診断で河川の水質調査を実施しました。

環境教育・環境学習

環境を良くするためには、一人ひとりの意識と行動が大切です。

西部地区環境市民会議では、実践活動や体験活動のイベントを通して、地域の方々の環境への意識を高めていくことが重要だと考えています。

8月には、市と協働で自然体験講座を行い、44名の参加のもと、「上恩方の自然と歴史探訪」と題して、関場から醍醐までを自然観察しながら散策したほか、醍醐降宿公民館では昔話を聞くなどしました。

11月には、川口やまゆり館まつりで活動パネルの展示や「身近な環境診断」を実施しました。



自然体験講座での散策風景

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山を中心とする豊かなみどりに恵まれた地区ですが、町田街道などの大気汚染、一部河川の汚れ、車の入れる山間部での不法投棄など取り組まなければならない問題を多く抱えています。また、現在建設中の圏央道による景観の大きな変化があり、今後は騒音や大気汚染などの環境影響を監視していく必要があります。

地域全体の取り組みとしては、地域を一つの博物館と考え、身近な自然や文化遺産等を市民の手で保存し、展示し、学んだりすることのできる「エコミュージアム構想」に取り組んでいますが、現在市が検討を進めている旧高尾自然科学博物館跡地の博物館を含む施設整備のあり方について、この構想を反映・実現させるよう働きかけています。

地域での啓発にも力を入れており、市民センターまつりやいちちょう祭りに参加し、ご

活動内容

高尾山環境影響調査

今後高尾山周辺は、道路網の建設等によって環境が変わることが予想されることから、環境変化を示す「指標植物」を決めて、その経年変化を追っていきます。

高尾山から蛇滝口にかけて、「指標植物」としてモミヤ杉などの樹木15種を決め、写真記録しました。

定期的に調査を行い、記録を積み重ねていきます。



高尾山山頂付近からの眺望



エコミュージアムマップ「高尾編」

エコミュージアム構想

地域の宝を掘り起こし、将来的には地域住民がその宝を守り、情報がネット化されることが期待されます。

地域の宝を示す「エコミュージアムマップ」を『市街編』に続き『高尾編』も完成させました。

平成18年度には地域を4つに分け、より緻密に調査し、埋もれた宝を発掘します。

また、市民参画の「地域宝めぐり」を開催します。

里山保全

緑地保護のための指定地拡大を目指して、里山の現状、関連の法律、条例を調査しました。

また、ボランティア団体と連携して下草刈等の里山保全活動を行ったほか、市民や子ども達に里山の素晴らしさを体験してもらおうと、「蛍観察会」や「里山環境探検隊」を他団体と共催で実施しました。

高尾の新しい博物館構想の検討

狭山、入間及び市川の各市立並びに茨城県立の博物館を訪問し、建設経緯、経営収支及び運営等を勉強し、博物館構想の参考としました。

「高尾の里整備検討協議会」に参加し、エコミュージアム思想の啓発や大型バス駐車場案の撤廃など、一定の成果が得られました。

流域の水質調査（COD値の単位：mg/l）

西南部地区には、南浅川水系の案内川、小仏川、初沢川、山田川、南浅川と湯殿川水系の大船川、殿入川、湯殿川などの河川が流れており、毎年2回20ヶ所のパックテストによるCOD値の定期測定を行っています。汚れもなく透明度の良い案内川と小仏川には小魚等の姿も多く、COD値が0～2以内に安定していますが、南浅川の南浅川橋付近では4～6と汚れています。また、湯殿川も和合橋の下流は4以下に、又、上流の明神橋辺りでは良くて6と、下水道本管未工事による原因が予測されます。なお、館町団地の生活雑排水は下水道本管工事が完了し、殿入川に流出する生活排水は皆無となっています。

大気汚染測定

西南部地区が取り組んでいる大気汚染測定は、20年前に発足した「八王子大気汚染測定ネットワーク」と同じ簡易カプセル方式によるものです。現在、ネットワークの測定場所とは別に14ヶ所の測定箇所を定めて年2回の測定を行っています。最近目立って交通量の多くなった山王坂下や大船バス停付近のNO₂の値が悪化しています。原因は、測定箇所がバス停付近であったためだけでなく、大型のトラックやバスによる排気が大きく影響しています。

紅葉台団地や館町団地などは、古くから自治会独自でNO₂の測定に取り組んでいますが、今後町会や自治会などと協同で測定ネットの拡大を計ることで、市民の関心を高める必要があります。

ごみ減量

ごみ減量に関する知識や最新情報をパネル化し、浅川と横山南の市民センターまつりや長房市民センターのふれあい端午まつりをはじめ、環境フェスティバルやリサイクルプラザまつり等で啓発活動を行いました。

11月のいちよう祭りでは、エコネットワーク八王子との共同企画で、ごみプロジェクトを主管して、来場者や出店者に分別の周知・指導と当日のごみ処理にあたりました。

また、市のごみ処理基本計画の策定に参画し、市民の立場でごみ処理等の提議・提言を行っています。



いちよう祭りでの分別指導

ごみの不法投棄等

不法投棄・ポイ捨ての現地調査（池の沢、木下沢）を行うと共に、木下沢では、不法投棄されたごみの除去作業に協力しました。

また、市の喫煙マナーアップキャンペーンに参加し、JR八王子と高尾の両駅周辺で吸殻収集とポイ捨て厳禁を呼び掛けました。

東 南 部 地 区 環 境 市 民 会 議

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東南部環境市民の会は大塚山公園を美しくする活動と御殿山尾根道の会を作り、歴史と自然にふれあう散策路の清掃と整備を行っています。美しくなった歴史と自然の散策路を活用して、自然体験講座を行いました。

河川の水質は、上流部の汚れを含めてほぼ横ばいの状態ですが、浅川と湯殿川の一斉清掃では、大量のごみが回収されています。河川へのごみのポイ捨てや不法投棄が水質汚濁につながることを啓発していきます。

ごみ有料化により、ごみ減量化への意識が高まりましたが、資源の混入をなくすために、更なる分別を進める必要があります。一方、道路や川などへのポイ捨てはなかなか減らず、マナーの向上が急務です。

16号バイパスの大気汚染は数値には大きな変化はないが、少しずつ上昇傾向にあります。特に中央線高架下の数値が高く、ここは道路構造上の問題もあり、行政への働きかけを強く求めていく必要があると思います。

活動内容

河川・水質

4月、6月(全国一斉)、10月、2月に、浅川(3ヶ所)、山田川(2ヶ所)、湯殿川(4ヶ所)、兵衛川(2ヶ所)の計11ヶ所の水質調査及び河川環境を調べました。

4月に、多摩川流域懇談会浅川部会と合同で浅川・湯殿川一斉清掃を行い、9月には、八王子市みんなの川の清掃デーに参加しました。

また、みなみ野小の「全国一斉水質調査」、由井2小の「環境ポスター展示」、由井3小の「湯殿川をきれいにしよう活動」を支援しました。



ごみ分別・収集・リサイクル

ごみの組成分析を活用し、資源の混入をなくすよう、市民センターまつり、青少対クリーン活動、環境フェスティバル等において、ごみ減量と資源分別を訴えた「ごみと資源のゆくえ」のパネルを使って、分かり易く説明しました。

市担当部署との懇談会を開催し、資源リサイクル工程見学に結びつけたことは一歩前進でした。

ごみのポイ捨て・都市の美観

北野駅やみなみ野駅など6駅の周辺道路をモデルに、9月30日、10月13日、3月27日の3回、きれいさ評価のためのごみ拾い・カウントを行いました。また、啓発活動として、「きれいさ評価結果」を環境フェスティバルや市民センターまつり、青少対クリーン活動等で発表しました。

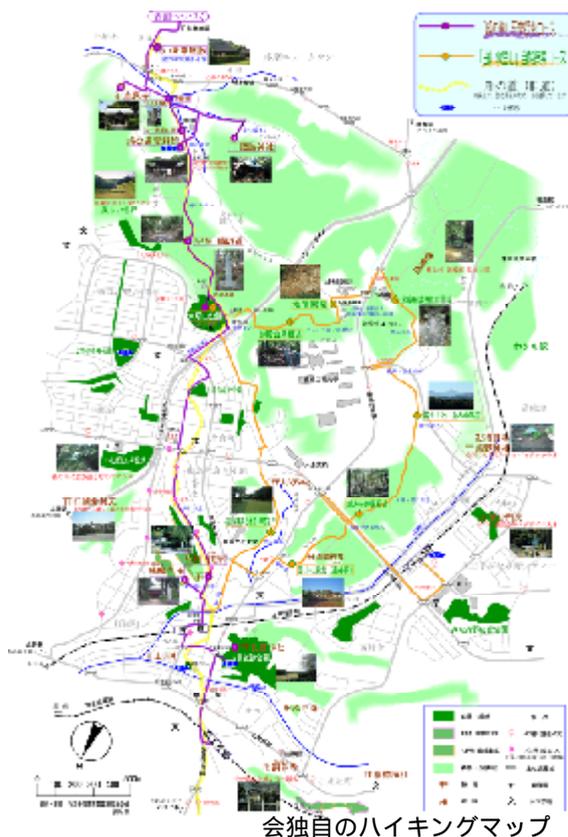
みどり・歴史景観

10月、市と協働で行った自然体験講座は、わたしたちの会が「由井の里山・絹の道散策会」と称して、歴史紙芝居「タカシとタローのゆめ」の公演を行ったほか、「大塚山スタンプラリー」や「栗水車の工作」、或いは、多摩養育園で地層観察会を行い、とても好評でした。

また、市の文化財課に働きかけて、鑓水峠の道標と大塚山公園案内板を設置することができました。

由井の貴重な自然や歴史に触れ、それを残してほしいという気持ちを持っていただこうと、「由井の里山・絹の道ハイキングマップ」を作成し、小中学校や町会・自治会、絹の道資料館などに配布しました。

このハイキングマップを利用し散策するみなさんには、とても好評でした。



会独自のハイキングマップ



会独自のハイキングマップ

5月に御殿山尾根道の道路アドプトに登録し、整備活動を始めました。そこで、自治会に参加を呼びかけ、6名の参加を得られたほか、東京工科大学の学生の参加も得られました。

次に、大塚山公園の整備についてですが、9月に市の公園課と現地調査を行い、古木や風倒木の除去が実現し、なお一層美しくなったことから、訪れた人に喜んでいただいています。

また、フィールドミュージアム鑓水に参加し、多摩美術大学の学生の研究発表とともに、展示啓発を行いました。

大気・騒音

年4回の16号バイパスでの大気汚染測定の結果では、環境基準を大幅に上回る箇所も多数ありました。

その原因としては、幹線道路で大型車が24時間、昼夜を問わず通行し、かつ渋滞することにあります。

また、大気汚染防止策の一環として試験的に「ケナフ」を栽培し、北野のあったかホールで展示、その効用を写真等でPRしました。



ケナフ：アオイ科ハイビスカス属

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部(由木)地区の南側は多摩ニュータウンとして新たな街並みを、また、北側は多摩丘陵が東西に走り、市の特色としてのみどりの景観をそれぞれ形成しています。

この地区の生態系は、多摩丘陵の里山を維持することで守られていることから、残された里山を守ろうと、自然観察会を開いたり、里山保全活動に参加したりしています。

また、ごみの不法投棄の現状を把握するため、未開発地や雑木林を実踏しましたが、懸念していたとおりごみ有料化後に多少増えてしまったことから、引き続き現状を把握していきます。

大気と水は、環境市民会議全地区に関わることから、NO₂の測定や水系マップの作成を関係団体などと連携して行っていきます。

活動内容

自然環境

里山環境を保全・再生・支援するために、自然観察会を「多摩丘陵の自然を守る会」の協力を得て、春と秋の計2回実施しました。

また、巨樹調査を2回実施し、由木中央市民センターまつりで発表し、現在、北野のあったかホールの「エコひろば」に展示しています。なお、巨樹等の調査には数年かかると思われていますが、継続的に調査していきます。



自然体験講座



不法投棄の現状(尾根幹線脇)

ごみ・資源・エネルギー

ニュータウン地区の開発が最終段階を迎えており、ごみの不法投棄の実態を把握するため、まだ開発が行われていない土地や法面の雑木林を中心に、日常活動を通じて現地の現状把握に努めました。

不法投棄の主たる物としては、粗大ゴミや事業系のごみなどですが、特に、家電リサイクルの有料化により、家電製品の不法投棄が増えています。

今後ごみの不法投棄の現状を把握していきますが、不法投棄を減らすためには、市民・事業者への啓発活動や、市への提案などが必要です。

また、南大沢市民センターまつりにおいて、ごみの分別にかかわる展示と説明を行うほか、ごみ減量の啓発キャンペーンを行い、住民の関心を高める活動を続けています。

環境にかかわる実践活動

地区内で活動している環境関連団体等と協力体制を確立するため、南大沢駅周辺で活動する団体との交流・連携を図りまし

順次、交流を深め、環境市民会議への参加を呼びかけていきま
8月には、全都的に行われた「喫煙マナーアップキャンペーン」に参加しました。また、町田市小山ヶ丘の「廃プラスチック処理施設の建設問題」では、その処理と健康との問題提起が
れました。



「廃プラスチック中間処理問題」集会

河川・水質



大栗川源流

6月
に「全国

水環境マップ実行委員会」や「浅川流域市民フォーラム」などと協力して、水質調査を実施しました。

今後とも、大栗川と大田川に流入する下水の実態調査を行うとともに、地域住民の方々に対し水質汚濁の原因を作る有機物や有害物等を含む生活排水を抑制するよう啓発していきます。

大気汚染

6月と12月の2回、市内全域におけるNO₂の調査を他の環境市民会議等と協力し、データ収集しました。

その結果出た数値については、今後原因と結果の分析が必要と思われます。

これからも、他の団体と連携を図りながらデータ収集を行っていきます。

また、自動車やバイクについては、アイドリング・スリーパー車の排出ガス規制など、広く啓発していきます。



松が谷トンネル西口付近

地域行動編評価一覧

環境基本計画における地域行動編の平成17年度の活動について、6地区の環境市民会議が各々内部で総括評価し、その評価を環境推進会議で相互評価したものです。

中央地区環境市民会議 総合評価

【環境市民会議での内部総括評価】

浅川巡回パトロール、水質調査、湧水調査など当初の目標をほぼ達成でき評価できる。今までの活動を今後を活かし、重点課題である町会・自治会への協力体制をより積極的に推進したい。

大気測定については、測定箇所を増設し、データの積み上げにより汚染状態の傾向はつかめてきたが、汚染度の高いところなどの追跡調査が重要である。まちなかの環境を知り、データ化するためのウォッチングを行っているが、予定していた地域を全部廻ることができず、目標に至らなかった。公園や神社の境内には、巨木があり、まちなかの重要な緑として保全に努めている。

アドプトと業者による技術的な手入れなどで進められ期待できる。市役所通りの道路アドプト活動は、町会等他団体と協働で推進された。まちの美観など、人の目に映るものについての「好敵なガーデニング*コンテスト」を実施した結果、優秀な作品の写真300点以上の応募があり、大きな成果を得た。町会・自治会や市民センターの行事と連携を密にし、協働でごみの減量対策に力を注ぎ、ごみ分別の啓発と地球温暖化対策のセミナーを開催。回数を増やせて、多くの市民への対応ができ、目標を達成でき大きな成果を得られた。

【環境推進会議での相互評価】

地域に根づいた活動で大きな成果を上げられたことから、町会・自治会との更なる連携強化に努めていただきたい。

また、ガーデニングコンテストや地球温暖化セミナーなどでは、多くの市民が参加できたことから、新たな事業も視野に入れ、引き続き実施していただきたい。

北部地区環境市民会議 総合評価

【環境市民会議での内部総括評価】

新たな啓発事業として、小学生のサタデー・スクールと協働で北部地区の一部の立体地形図を完成させ、小学生及びその父母と交流が図られた。次に、ホームページを開設し、市民会議の活動内容等について紹介した。また、「身近な環境便り」を発行、地域内の団地等に回覧し、身近な環境に関する情報の提供と環境市民会議の活動について周知した。部会活動では、水部会では谷地川のCOD値の測定と生き物調査を実施し、大方評価できるものであった。みどり部会では、滝山城跡公園の下草刈りの実施とふるさと城郭入門講座を関係団体と開催し、多数の参加者を得て所期の目的を達した他、本年度は市と協働で小宮公園及び大谷緑地を中心に自然体験教室を実施した。ごみ対策では、不法投棄箇所の巡回行ったことにより、市の監視体制とあいまって、大いなる改善が図られた。大気汚染測定においては、測定箇所と回数について、従前どおり実施したが、結果を反映させる活動に至っていない面があるので関係団体と再考していきたい。

【環境推進会議での相互評価】

立体地形図のアイディアは素晴らしいと思います。今後、この地形図をもとに、学校はもとより、地域住民との交流を図っていただきたい。

また、「身近な環境便り」の発行により、情報提供や活動報告ができるようになったことで、立体地形図と同様、地域住民との交流が図れるよう、今後も継続していただきたい。

西部地区環境市民会議 総合評価

【環境市民会議での内部総括評価】

昨年度に引き続き大気測定、騒音測定及び水質調査を実施し、交通渋滞や水質汚染の原因の解明に努めた。次年度は、課題を絞り、解決のための取り組み方法を検討することとした。

不法投棄の回収を行うほか、町会・子供会と協力して集団回収を行った。

また、町会・自治会と協働して、3Rの啓発と推進のための動機付けとして、リサイクル活動を行った。地域に定着するよう、更なる活動の促進に努めたい。

里山保全活動では、活動組織の立ち上げと月例活動が定着し、参加人数も70名となった。

また、自然体験講座でも、スタッフを含め44名の参加者が得られ、里山保全活動と同様大きな成果があったことから、活動の拡充を図り、今後、この西部地区が持っている自然を保全していきたい。

環境啓発では、環境フェスティバルに参加し、西部地区の身近な環境をパネルの展示などをおして行ったが、次年度以降は、各活動の場において、環境学習・環境教育に積極的に取り組む必要がある。

【環境推進会議での相互評価】

自然を守り、自然を知っていただくための里山保全活動や自然体験講座は、とても効果のある事業であることから、継続して取り組んでいただきたい。

また、個々の活動の場において、町会・自治会と協働して取り組めるよう努めていただきたい。

西南部地区環境市民会議 総合評価

【環境市民会議での内部総括評価】

自然環境の分野では、西南部地区エコミュージアムマップの高尾編を完成させ、高尾山の環境指標植物を設定し写真による観察記録を開始した。里山保全については、ボランティア団体と協働で「ホタル観察会」や「里山探検隊」を実施し一定の成果を得た。また、市が検討を進めている旧高尾自然科学博物館跡地の博物館を含む施設整備のあり方について、私たちのエコミュージアム構想を反映させるように積極的に働きかけた。

河川の水質検査と大気汚染測定については、調査結果を市民センター祭りで展示し、地域ごみの減量に関連して、環境推進会議で取り組んでいる「ごみ処理基本計画」を検討・討議し、会員の理解を深めた。

不法投棄については、調査回数が少なく地域全体の実態の把握はできていない。地域の啓発活動として、市民センター祭ではごみ減量に関する情報を展示し、又、いちょう祭りではごみの分別指導を行い、市民からも高い評価を得た。

【環境推進会議での相互評価】

昨年のエコミュージアムマップ「市外編」に続き、「高尾編」が完成したことから、今後は、このマップを活用し、地域の人たちと共に活動していただきたい。

また、ごみの減量や分別を周知するため、市民センター祭りやいちょう祭りなどに積極的に参加したことはとても重要であり、継続した取り組みをお願いしたい。

東南部地区環境市民会議 総合評価

【環境市民会議での内部総括評価】

河川・水質では、定点の水質及び河川環境の調査、身近な川の清掃活動への参加、みなみ野小などで河川の環境学習を支援した。みどり・歴史景観では、大塚山公園の清掃と整備、御殿山尾根道の道路アドプトによる整備を開始、自然体験講座由井の里山・絹の道散策会の実施、多摩養育園での地層観察会、由井の里山・絹の道ハイキングマップの作成、フィールドミュージアム鑑水に参加し成果をあげた。ごみ分別・収集・リサイクルでは、組成分析への参加は実現しなかったが、市で実施した結果をグラフ化し資源回収促進の啓発に役立てた。地区別（自治会、町会別）に、ごみとして回収した中の資源混入率をカウントするのが最も望ましいが、現状ではそのしくみがなく、今後の課題であり、又、間違いやすい事例情報は得られなかった。

資源化への知見向上を目的に再生工場の見学を行い、資源の行方としてパネル展示し、自信を持って説明できた。ごみのポイ捨て・都市の美観では、きれいさ評価として地区内駅周辺道路のポイ捨てごみを拾いカウントした。半年おきに、本年は3回目、4回目を実施した。学校、事業者による定期的な清掃活動がいくつか増え、ベスト3はその代表である。ポイ捨てをしやすいくところ、ごみの溜まりやすいところが大分はっきりしてきた。普通は拾わない植込みの中など徹底的に拾うことにより、少しの間でもきれいになっていることも評価できる。ポイ捨てをしない、させないまちづくりにどうつなげていくか、ポイ捨て禁止条例を含め今後の課題である。大気汚染は16号バイパスで悪い結果が依然続いている。大気汚染浄化策としてケナフを試験栽培し、エコひろばに展示するとともに、苗の配布を行い広く地域住民にPRした。

【環境推進会議での相互評価】

大塚山公園及び御殿山尾根道のアドプトの開始、並びに、フィールドミュージアム鑑水への参加など、数多く取り組んだことで大きな成果を得ています。また、ハイキングマップの完成度が高いことから、今後地域活動での活用に期待します。

ポイ捨ては身近な問題のひとつであり、「しない、させない」まちづくりに努めてほしい。

東部地区環境市民会議 総合評価

【環境市民会議での内部総括評価】

自然環境の分野では、里山づくりをはじめとし、自然観察会や巨樹調査など目標を達成できた。また、堀の内地区の「19住区」の開発も「都市再生機構」が大詰めを迎えた。

ごみ対策では、市民センターまつりなどでのごみ減量啓発キャンペーンや町田市との境界地域の不法投棄場所の巡回を行っているが、継続が必要。

河川・水質の分野では、他の団体と連携して水系マップの作成や、実態調査を行った点は高く評価できる。今後も継続が必要である。

大気汚染の測定については、環境測定点を増やすことなどや、今後学校との連携・協力のための検討が必要である。

【環境推進会議での相互評価】

里山づくりや自然観察会、巨樹調査などみどりの保全に取り組まれたことは、地域の特色ある活動として大きな成果となっていることから、継続して取り組んでいただきたい。

ごみ対策では、不法投棄場所の巡回やごみ減量の啓発など、継続して取り組んでほしい。

水の分野では、他の団体と連携して行った作業や河川の実態調査を行ったことから、継続して実施していただきたい。